

学校名	佐賀市立勸興小学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○校内研に熱心に取り組む、国語科を中心に児童が主体的に学ぶ指導法について理解が進んできている。</p> <p>○異学年交流を効果的に設定し、コロナ禍にあっても児童同士の関わりは深まった。また、いじめ問題に対し、複数の職員による組織的対応(早期発見・早期解決)がなされている。</p> <p>○「勸興」の誇りを学ぶ発達段階に応じた学習やふるさとをより良くしていこうとする「市民性」の学習が十分とは言えない。</p> <p>○自立を目標とした教職員の指導方針に成果が表れ、援助要請や自己決定できる児童が増えきている。</p> <p>○教職員の働き方改革については改善は見られるものの、時間外業務時間は45時間を超えている。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>ふるさと勸興を誇りに 個性と創造性に富む子どもの育成</p> <p>～勸興魂「勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで」を校是として～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>○学力向上の推進…「自分で問いをもち、学び続ける児童」つきたい力を明確にした授業、価値ある家庭学習への転換</p> <p>○豊かな心の育成…「多様性を受け入れられる子ども」市民性を育む教育の推進、多様な人(価値)との出逢いの促進</p> <p>○特別支援教育の充実…「自分らしさを誇り、自立へ向かう子ども」アセスメントの徹底、個に応じた指導の充実、自立活動の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●現行学習指導要領の理念の具現化に向けた授業改善	○単元終末時の振り返り、本単元で身につけた力を明確に説明できる児童が70%以上 ●マイプラン達成教師70%以上	○全教科・全領域において「単元計画・学習課題」の授業実践(1回) ○公開授業後の研究会実施(100%)	A	・学期に1回以上の授業公開・研究会を行い、授業改善を継続している。学力向上対策評価シートのマイプランを達成したと回答する教師は80%を超えている。授業で身につけたい力を目指してがんばっていると回答する児童は70%を超えている。	A	・理念の具現化に向け先生方が子どもたちのため研鑽を積んでいることが分かる。 ・数値目標が達成されていてすばらしい。地域や保護者は教育への関心が高く、協力も得やすい環境であるため、より高い数値目標を掲げ継続してほしい。
	○一人一台のタブレットを有効活用した授業実践	○「各学年で身につける操作スキル」当該学年の技能習得の達成 80% ○プログラミング教育全体計画の当該学年の指導内容の履修100%	○GIGAタイム・すくすくタイムの確実な実施 ○Eコネットを参考にしたミニ研の実施(1学年ずつ発表、年6回)	A	・GIGAタイムで児童のスキルが向上し、リモート学習や授業中での活用が進んでいる。また、ミニ研での学び合いを通して、一人一台タブレットの活用幅が広がった。「各学年で身につける操作スキル」の一覧表をもとにした指導内容を学習させ、当該学年の技能習得につなげている。	A	・勸興まつりで参観した際、子どもたちの学習の様子や発表を見て、スキルの高さに驚いた。先生方の熱心な指導も見て取れた。 ・授業中での活用やリモート学習が進んでいて、タブレットの利用が効果的に行われていると思える。
●心の教育	●児童生徒が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○多様な人物や価値観との出会いから、自分事としての振り返りができる児童80%	○多様な人物や価値観との出会いを教育課程に位置づけ、価値ある発問により学びを作る(瑞宝太鼓・Feliceや授業のゲストティーチャー等)	A	・女性三重唱グループ「Felice」を招いた人権ふれあいコンサート、地域の弁護士を招いたいじめ防止授業、瑞宝太鼓による演奏と講和を実施した。様々な価値観に触れ、自分の考えを振り返らせることができた。	A	・いろいろな人の話を聞き、いろいろな体験をしていく中で、子どもたちが成長し、心の広がりが見えてくる。体験により生じた感情や思いを振り返らせて深めるという良い取組であったと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「先生は困ったときに相談にのってくれる」と回答する児童が80%以上	○確実にいじめアンケートの対応 →学年での対応及び管理職への報告 ○全校朝会で全職員によるいじめ防止劇の実施	A	・毎月のアンケートを基に、学年で早期対応がなされ、管理職への報告も徹底している。「先生は困ったときに相談にのってくれる」と回答する児童は90%を超え、保護者も、「学校が相談に対応してくれる」と90%以上が回答している。	A	・大変、丁寧な対応をとられており素晴らしいと思う。アンケートの結果、先生への信頼度が高いことがみえる。継続していただくとともに、残り10%の不満足者解消に向け、取り組んで欲しい。
	◎ふるさと勸興を誇りに、自分の夢や目標について考える教育の推進	◎「勸興の良さ」を1つ以上回答できる1～3年生、「勸興を誇りに思う」と回答する4～6年生が80%以上	◎児童が地域を学ぶ場、児童の地域における活躍の場、「出番・役割・承認」の場を各学期に1回以上、教育課程に位置づける ◎「勸興読本」「さがの人物探検99」の活用	A	・4年「キッズマート・ライトファンタジー点灯式・パレード」の取組み、5年「校区探検・佐賀アーリーナ見学」、6年「弘道館2」や、「勸興読本」「さがの人物探検99」の読み込みで、地域の理解を深めるとともに、自分の夢や目標について考える機会となった。「勸興を誇りに思う」と回答する児童は、80%を超えている。	A	・コロナとの共生を求められる中、工夫・検討しながら様々な取り組みを実施できてよかったと思う。 ・子どもたちは、いきいきとした表情・笑顔であった。 ・アンケートの結果では、ふるさと勸興を誇りに思う児童が80%を超えている。下学年は、質問が異なるため100%となるよう期待する。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上	○徒歩通学の価値づけ及び奨励 ・PTA総会・全校朝会で啓発 ・学校だより・保健だより・学級だよりで発信(それぞれ1回以上) ・学級懇談時などでの協力依頼 ○運動の重要性の啓発 ・保健だよりで啓発	A	・始業式・入学式、全校朝会やPTA総会、学校だよりによって、「歩いて登校」の効果が、本校児童に浸透している。保護者の理解・協力もあり、冬の寒い時期になっても徒歩登校率は下がっていない。	A	・外遊びや運動の習慣がつくようになって欲しい。体づくりを進めることで、地域とのつながり・ふれあいなど、心の健康づくりも図れると思う。 ・徒歩通学の徹底は、素晴らしい取り組みで続けて欲しいと思う。雨や風など困難な日でも、自分の力で登校できたことが、体力を向上させ、自信にもつながると思う。
	○ゲーム・インターネット・SNSの節度ある適切な使用	○端末を利用する約束を守っていると回答する保護者の割合が80%以上	○情報モラル等の問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施する ○学級だよりで、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発をする	A	・保護者アンケートでは、子どもと話し合って約束やルールを決めていると回答している家庭が90%以上で、家庭で決めている約束やルールを守っていると回答している家庭は、84%であった。端末の利用に関する利害については、今後も児童への指導や家庭への啓発を続けていく必要がある。	A	・学校としての取り組みは良くなされていると思う。 ・家庭内では、保護者と子どもが協力してルールをつくり、対話を通してルールの見直しに取り組んで欲しい。 ・引き続き継続して、児童への指導に合わせ、家庭への啓発も行ってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●超過勤務時間が月45時間以内の職員80%以上	○業務の効率化アイデアの共有 ○18時以降の電話の禁止 ○提出期限ボードの活用 ○i-schoolの活用	B	・具体的取り組みは定着しているが、超過勤務時間が月45時間以内の職員は、30～40%で推移している。また、効率的・効果的な業務の推進を心掛けている職員が70%程度にとどまっでいて、今後、業務の効率化アイデア募集などを通して、業務改善に参画する意識をもたせたい。	B	・効率化を心掛け、取り組まれているのに改善できていない。根本的原因を改善しなければ、先生方の意識だけの問題ではないような気がする。 ・勸興小に限らず、全国的な課題であると思う。努力は感じられるが、結果をみると、職員の心掛けなりとも100%となるよう期待する。
	○探さない・切らさない・ためない整理整頓	○各箇所の整理整頓評価をA以上にする。(S・A・B・C・D)の5段階評価	○安全点検の際に安全の視点とは別に整理整頓の視点で評価を行い、室管理者の声かけて即時の改善を図る。	B	・職員作業などで時間を確保すると、職員室・更衣室の整理整頓がなされるが、日常化まで至っていない。日頃の気づきと行動によって、その状態を維持できるように、心掛ける職員を増やしたい。	B	・整理整頓の理解を深め、余分なものをため込まないことが、時間を生み出すことにつながる。苦手だからと諦めず、取り組みを進めて欲しい。 ・改めて時間を確保しなければ出来ないほど、日常は忙しく、時間に追われている。日常全般に整理整頓が、維持・継続できるような心のゆとりを保てる状況を生み出すことが必要だと思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○「エンパワーメントの尊重」を基本理念とした対人援助の理解 ○必要な児童の「個別の指導計画」の効果的な運用	○対人援助の理解に関する自己評価80% ○「個別の指導計画」を有効に活用したと回答する職員80%	○対人援助に関するミニ研の実施 ○自立に関するミニ研の実施 ○アセスメントに基づく児童理解の徹底 ○「個別の指導計画」等の記録を活用した児童面談や保護者面談の実施	A	・児童ひとりひとりのエンパワーメントや「援助要請」の力を育成することの重要性を職員間で共有している。児童に共感的に寄り添い、よき理解者でありたいとする会話や雰囲気職員室にはある。対人援助の理解に関する自己評価では、90%を超える職員が肯定的な回答をしている。 ・配慮を要する児童について情報交換会を行い、複数の視点から児童理解を徹底し、青ファイルに記録して「個別の指導計画」を作成・活用している。「個別の指導計画」を有効に活用できたと回答する職員は、80%以上である。	A	・日頃から、真摯な対応で子どもたちへ接している姿を見かける。 ・児童に共感的に寄り添い、よき理解者でありたいという姿勢は、学校訪問の際などに十分伝わっている。 ・職員研修の実施や情報交換会の継続実施、ファイルに記録を管理する等、積極的かつ丁寧な対応をされていると思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・職員集団が学校評価の重点取組をよく理解することで、同じ方向を向くことができた。</p> <p>・「自分で問いをもち、学び続ける児童」を育成することを目標に、校内研を通して教職員が学び続けたことで、つきたい力を明確にした授業づくりを進めることができた。県学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」の向上が見てとれた。</p> <p>・多様な人物や価値観との出逢いを通して、多様性を受け入れ自他ともに大切に考えられる教育を展開することができた。</p> <p>・「勸興皆一家」を掲げる地域に支えられた環境の中で、自分らしさを誇り、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革については、改善はみられるものの、今なお課題が残る。職員自らの改善策を募り、ボトムアップで業務改善を進めるなど、今まで以上の工夫が必要である。</p>
----------------	---